

## 第1回 大宮GCSまちづくり調整会議 議事録

開催日時：令和3年12月13日（月）10:00～12:00

開催場所：大宮ソニックシティ地下 第2・第3・第4展示場

出席者

（敬称略）

氏名	備考
岸井 隆幸	日本大学 理工学部土木工学科 特任教授
古澤 達也	日本大学 理工学部土木工学科 客員教授
河野 見義	大宮駅東口南地区市街地再開発準備組合 理事長
村上 隆子	大宮駅東口西地区N街区まちづくり推進協議会 副会長
安藤 繁	大宮駅東口西地区S街区まちづくり協議会 会長
坂 仁視	大宮駅前大門町一丁目中地区市街地再開発準備組合 副理事長
齋藤 巖	大宮駅東口北地区市街地再開発準備組合 理事長
斎藤 隆	宮町一丁目中地区まちづくり協議会 会長
齊藤 誠	東日本旅客鉄道株式会社 総合企画本部投資計画部 担当部長
伊藤 滋	東日本旅客鉄道株式会社 大宮支社 企画室長
渡辺 隆史	東武鉄道株式会社 経営企画本部 部長
矢野 哲郎	東武鉄道株式会社 鉄道事業本部技術統括部改良工事部 部長
渡邊 哲	埼玉新都市交通株式会社 代表取締役常務
関根 肇	一般社団法人埼玉県バス協会 専務理事
小谷 彰治	一般社団法人埼玉県乗用自動車協会 会長
西村 朗	埼玉県 企画財政部地域経営局長 （代理）交通政策課主幹 岩本 孝之
桑島 正彦	埼玉県警察本部 交通規制課長 （代理）交通規制課道路協議係長 生天目 実一
土屋 愛自	さいたま市 都市局長 （代理）都心整備部副理事 島村 秀明

栗原 俊明	大宮駅東口商店街連絡協議会会長（オブザーバー）
松本 敏雄	大宮区自治会連合会会長（オブザーバー）
山崎 泰生	大宮南銀座まちづくり勉強会会長（オブザーバー）
田雑 隆昌	国土交通省 都市局市街地整備課拠点整備事業推進官 （オブザーバー）
太田 裕之	国土交通省 都市局街路交通施設課街路交通施設安全対策官 （オブザーバー）
酒井 祐介	国土交通省 鉄道局都市鉄道政策課 課長補佐 （オブザーバー）
大関 弘之	国土交通省 関東地方整備局建政部都市調整官 （オブザーバー）
島田 守	埼玉県 産業労働部観光課課長（オブザーバー） （代理）観光課主幹 小山 直紀
後藤 正也	独立行政法人都市再生機構 東日本都市再生本部事業企画部 担当部長（オブザーバー）
工藤 和美	一般社団法人アーバンデザインセンター大宮 センター長 （代理）副センター長 藤村 龍至（オブザーバー）
町田 孝良	さいたま市大宮区長（オブザーバー）

## 次第

1. 開 会
2. 委員紹介
3. 会長の選任

<司 会> 要綱第4条の規定により、会長は委員の中より互選により選出することとなっている。会長の選任に当たり、委員の皆様からの推薦はあるか。

<事 務 局> 推薦がないようなので、事務局から提案させていただく。日本大学特任教授の岸井委員に会長をお願いしたいと考えているが、いかがか。

(異議なし)

<司 会> それでは、岸井委員に会長をお願いしたい。

<岸井委員> ただいま本調整会議の会長を仰せつかりました日本大学の岸井です。

大宮GCSプラン2020の作成でもお手伝いさせていただき、ここにいらっしゃる多くの方とも議論を重ねさせていただいた。今回はまちづくり調整会議という名の通り、プランを具体化していくための関係者の調整の場だと理解している。大宮が大変高いポテンシャルを持っていることは皆感じていると思うが、さらに力を高めるために多くの方が結集されていると思っている。実際に事業に入っていくと予期せぬこと等あるだろうが、議論を重ね、良い方向に持っていきたいと考えている。よろしくをお願いしたい。

<司会> 続いて、職務代理の指名をお願いしたい。要綱第4条第4項の規定により、会長が指名する者が会長の職務を代行することになっている。岸井会長、職務代理の指名をお願いしたい。

<岸井委員> 同じく学識として入られている古澤先生をお願いしたい。前にもさいたま市で活躍されており、地域にも精通されているため、お力になっていただければと思っている。

<古澤委員> ご指名を頂戴致しました日本大学の古澤です。ご縁があって平成26年にさいたま市で勤務させていただいた経験がある。当時はまだGCSは具体的な内容に至っていなかったが、かなりの精緻な議論、具体的な事業の調整に入るまでにきたのは、皆様のご尽力の賜物と承知している。事業についてはこれからが一番難しいと思う。忌憚のない意見をお伺いし、しっかり前に進められればと思う。よろしくをお願いしたい。

(以後、岸井委員は「会長」、古澤委員は「職務代理」と表記)

#### 4. 議 題

(1) 大宮GCS化構想の検討状況について

<事務局> 資料1（大宮GCS化構想の検討状況について）について説明。

<会長> 全体像をもう1度横並びにして改めて見るのが今回の第1回まちづくり調整会議の役割である。これから検討することを含めて関係者の方のご意見を積極的にいただきたい。

<河野委員> 南地区としての留意点について2点意見を述べたい。

1点目は、全体に対する指摘と要望についてである。

都市計画スケジュールの遵守、駅前広場の2023年度（令和5年度）の都市計画決定を前提として、周辺地区の開発は事業工程を練られているところであるが、当初の予定より遅延があるならば、その内容や原因等を精査して明確に示すべきである。

駅前広場区域、形状の決定という年度内目標の遵守に向けて、駅前広場区域、形状の決定は都市計画や周辺街区の計画を決める一丁目一番地である。駅前広場PT（プロジェクトチーム）では3案が示されたが、確実に年度内の決定を要望する。

2点目は、南地区としての要望と主張についてである。

まず、デッキ整備の明確な方針について、駅前広場PT（プロジェクトチーム）では道路形状や地下車路について示されたが、デッキ整備の範囲が不明確であった。駅前広場の南・中地区をデッキ状の交流広場につなぐことが必要不可欠であり、駅前広場計画の一部として明確に明示すべきである。このことは必ず議事録に残してほしい。

また、西地区S街区の権利者の方向性の明確化について、西地区S街区の権利者の意向確認を踏まえた上での南地区への具体的な要望や条件がいまだ不明である。南地区として事業計画を進める上では、さいたま市が責任を持って仲介をなし、方針を明示すべきだと思う。

以上、まちづくりにおいてスケジュールの遅延こそが最大のリスクであり、地権者の利益を大きく損なうことを強く認識していただきたい。

<会長> スケジュール感、駅前広場が先に決まらないと開発の絵が描きづらいというご指摘があった。市のお考えをお聞かせいただきたい。

<事務局> スケジュールについては資料2でご説明する予定であった。地元の方が令和5年度の都市再開発の都市計画決定を予定しているということ

も十分認識している。概ねの駅前広場の区域の特定も今年度行っていきたいと考えている。課題が山積しているので、関係者と調整し、地元の方にもご協力いただきながら調整を図っていきたいと考えている。

<会 長> スケジュール感を説明されるのであれば、資料 2 も説明して、全体で議論してはどうか。

(2) 今後の進め方について

<事 務 局> 資料 2 (今後の進め方について) について説明。

<事 務 局> スケジュールについては、各種調整すべきことはあるが、今年度内に概ねの駅前広場の区域の決定から始めていきたいと考えている。

<会 長> デッキの話や、西地区 S 街区について市として協力してほしいという話であった。ぜひ引き続き努力していただきたい。

<事 務 局> デッキの整備については、これまでも様々なご意見をいただいているが、駅前広場の概ねの区域の確定とともに、中央通路、新東西通路からのアクセスの仕方が関連してくるため、それと合わせて検討していきたいと考えている。デッキの規模については必要な量を考えながらこれから調整を図っていきたいと考えている。

さらに、西地区 S 街区については駅前広場の区域の確定と関連するため、市としても移転場所等非常に重要な課題であると考えている。西地区 S 街区の権利者とともに、しっかりと連絡調整を図りながら検討していききたい。

<会 長> 西地区 S 街区からご意見等あるか。

<安藤委員> 西地区 S 街区は 10 人しか地権者がいないため、独立して再開発を行うことはあり得ない。1 回頭を白紙にして最初から考えてみるという議論をしている。若い人からは、あくまで土地、建物は収益を生み出すための資源であることから、当然収益をより高く得るための場所は重要であるが、今の場所にこだわることはないという意見も出ている。

大宮駅は 2 階に改札口があり、それが今後大きく変わることはないという前提で考えると、2 階が人流の発生するフロアになる。それを中心に、あまり地上部に固執することはなく、立体的に用途や収益を考えていくべきではないか。ターミナル街区あるいは大門町のエリアで立体的に考えたほうが様々な課題が解決しやすいのではないか。当然コストの問題もでてくるかもしれないが、できればその辺は補助金でお願いしたい。資料 1 P. 22 には青空の見え

る地面の芝生広場があるが、2階にあってもよいのではないか。

<会長> とても前向きにお考えいただいているようで心強い。東西通路の問題を考えると一緒に進んでいただかなければできないと思っている。引き続きよろしくお願ひしたい。

<齋藤巖委員> 北地区としては、当初GCSのあり方として「まち」を作っていくという考えのもとに始まっていると考えている。未だにその考えは変わっていない。

まちということを考えると、まち全体でどのように人を回遊させるかということを考えていかなければいけない。それは地下車路にも関連する。どのような駅前広場になるかによって人の流れ方も全く変わってくる。大きな視点で考えていただきたい。

資料1 P.9に岸井先生の、「建物を作るだけでなく、ソフトな仕組みをつくり、それを動かす人もいないといけない」という言葉は重要であると考えている。考え方の原点を忘れないように進めていただきたい。

<会長> いろいろな地区がそれぞれの事情を抱えて動いている。タイミングや順序等も明確ではない中で、1つが動いた後のまちの営みをどのように考えていき次のステップに結びつけるかということを考えるため、全体のまちの回遊を順次増やしていけるような大きなシナリオが必要である。

<齋藤誠委員> 新東西通路について、JRではさいたま市から調査を受託している。来年の秋に向けて成果をまとめているところである。いろいろな制約・調整があり、手順が難しいので時間がかかっている。ご容赦いただきたい。回遊性という話があったが、我々も重要な観点だと考えている。より使いやすい駅にすることと同時に、駅周辺のまちとエリアの空間づくりにきちんと配慮して、つながりに貢献できるように考えていきたい。

2階レベル・1階レベルどちらも回遊性をきちんと確保できるよう、まちと連携できるような空間づくりに配慮していきたいと思っている。

<会長> まちをいかにして楽しんでもいただけるかということについては、公共的な空間だけでできる話は限られている。開発ビルの中の通路、駅の中の通路、様々な公開空地、オープンスペース、デッキ等がうまくつながっていくことが大事である。大宮の持っているポテンシャルを高めるためには大宮にいかに周辺の地域から来やすくして、しかもまちとのアクセスする場所が気持ちよくつながっているかということとはとても大事だと思う。引き続き

ご協力をお願いしたい。

前回のGCSプランを作ったときから、今回は一歩進んで、中地区で一部駅前広場の機能を受け止めてもよいというステップに来ているように思う。公共空間と開発との一体感をどのように作っていくかが次の課題である。建物側の絵ができ上がってくることと公共的な空間ができ上がることというのは一体のはずである。そうならないと本当に魅力的なまちにならないのではないか。開発は全部一遍に進むわけではないため、各々のステップの中で矛盾が起きないように、まちにご迷惑をかけないようにしながら進めていかなければならない。まさにこの調整会議の果たすべき役割というのはそういうところにあるのではないか。

中地区から特に駅前広場に関して、皆さんにお話しすることはあるか。

<坂委員> 中地区は駅前広場を取り入れるという話に対して当然地権者からはいろいろな意見がある。当初から比べると中地区への負担は大変大きくなる。負担が増える分、我々の事業性が非常に損なわれるため、私たちはインセンティブを求める。

東京オリンピックが決まって以降の建築費が高騰している。同じコストがかかった都内のビルと私どものビルを比べると家賃が半額程度になる。しかし、地権者の年齢的な問題もあるが、私どもの街区は建物の物理的な寿命があるため、進めなければならない。令和5年の都市計画決定を目標に進めていこうとしているが、あと1・2年が待てずに建て替えを行っている箇所もある。中地区ではやむを得ず建て替えをするという建物が他にも出てきてしまうため、スケジュール感に関しては待ったなしの状態である。できるのかではなくて、やるという決心をしている。

大門二丁目中地区のビルが来年の春に竣工するにあたり、旧中山道で歩行者の大渋滞が予想される。将来的にも旧中山道の東側の開発が起こる可能性が高いため、何とか私どもが開発する中に少なくとも旧中山道東側の方たちに駅へスムーズに旧中山道をオーバーハングできるようにしたい。今PT（プロジェクトチーム）で検証されている中で、駅前デッキの項目、デッキの範囲のところに「必要最低限の確保」とあるが、最小限ではなく、最大限の確保に変更していただきたい。

<会長> 人をどのように動かすのかということだが、開発と公共的な空間とが連続的に一体的にでき上がっていくための実現に向けたシナリオを皆

さんと共有できるとよいと思う。

<村上委員> 西地区 N 街区は細長い地区だが、新東西通路の出入り口及び東武の 2 面 3 線化の影響を受ける。まだ土地の形がどうなるか不明だが、岸井先生がおっしゃったように、土地の形が決まるまで待つのではなく、私たちは私たちで考えて進めなければならない。

西地区 N 街区は今まで駅から一番奥であったため、新東西通路ができることは希望の光である。新東西通路とのつながりや駅前広場の範囲等も考えているが、西地区 N 街区の将来の土地の範囲がなるべく早くわかればこちらも動きやすい。いつ頃になればわかるのか。

<矢野委員> 新東西通路については JR と同様さいたま市から調査を受託している。具体的な通路の位置、幅が設計をすすめる上での 1 つのファクターになる。当社としては GCS という大きなプロジェクトの中で、乗り換え利便性の向上と合わせて、まちに貢献できる駅ということを将来的に考えたときに拡張させたいという意思を示させていただいた。現状東武鉄道は土地を持っていないため、土地の形状、あるいは取得、賃借についてこれから考えていきたいと思っている。ある程度設計が進む段階で、西地区 N 街区の方へ面積等を具体的に提示できるとしている。準備ができた段階でお知らせしたいと思っているので今しばらく時間を頂きたい。

<会 長> 各街区で検討を進めていると思うが、それぞれの絵を全て描き終えてから調整をするというのは極めて困難であるうえ、揉める要因にもなる。なるべく早い段階で調整すべき項目を共有することが重要である。

特にデッキの高さや出入口等についてはなるべく早めに調整をする必要がある。そのためには、公共空間と今の再開発ビルの絵を突き合わせて、調整する項目の共有が必要である。ぜひ市のほうで事前に早めに皆さんで共有していただくよう調整していただきたい。

その上で、中地区のように一部駅前の機能をビルに取り込んでもいいのではないか。そのほうが結果的には全体としてプラスになるということは多分他の街区や鉄道側の開発においても出てくるのではないか。あるいは西、北の地区からもご協力をいただいて、より豊かな公共空間も実現できればと思う。これまでは、最低限の機能とボリューム感、あるいは物理的な条件を示しているだけである。まさにこれから工夫するという次の段階に来ていると私は認識している。ぜひ引き続き協力をお願いしたい。



古澤委員は大宮GCS推進会議には出席されていなかったもので、感想を含めてご意見等あるか。

<職務代理> 平成26年から2年ほどさいたま市に勤務させていただいたことがある。駅改修や、新東西通路といった横の連絡、狭い駅前広場、中央通りの問題、周辺の再開発、これらは同時に検討を進めないと駄目だということでGCSが始まった記憶がある。

2点ほど申し上げたい。1つは学の立場からで、当時一番考えたのは、大宮東口は歴史のあるまちであるため、このまちの記憶をぜひ地元の皆様方の子や孫の世代まで引継げるような空間にさせていただきたいということである。キーワードで「大宮らしさ」という言葉がたくさん出ているが、具体的なことをこの調整会議で明らかにしていく段階にきたのではないのか。

もう1つは、行政官だった立場からになるが、プランの中身の議論ができるようなこれだけの会議ができたのは素晴らしいことである。ぜひここで議論を尽くして、スケジュールを決めた上で、しっかり前に進めるようにしたい。そのためには、さいたま市職員は大変だが、意を尽くして地元調整等行っていただきたい。

<会長> 市に宿題が出た。ぜひ頑張ってください。

私は物理的に共有すべきこととお話したが、それを超えて、「大宮らしさ」というのは何なのかということ共有できるだろうか。同じものを作っても仕方がないが、それぞれの皆さんが思っている大宮のイメージを共有できるとよい。これから具体的なデザインの検討が進むとその議論がとても大事になってくる。何となく路地空間と書いてきたが、そういう空間が本当にうまく作れるのか。大きな開発で全国チェーンのお店が並ぶことが大宮らしいか。皆さんがそれでよいと思われるかどうかというのはとても大事なことである。

「大宮らしさ」の具体的な検討スキームについては知恵の出どころである。開発の各段階も大宮らしくできるとよい。

<松本オブザーバー> 生まれも育ちも大宮で、旧大宮市で地方議員を昭和52年から36年間務めさせていただいた。大宮には昭和58年に人間関係を構築せず、数の力で都市計画決定を決めてしまった経緯がある。そのようなことをしては、今後まちづくりは進まないため、お互いにコミュニケーションを取りながら温かくお互いに悩んで考えていきながら進めてほしい。特に職員の皆さんには全力を挙げてやってほしい。

まだ具体にはなっていないが、岩槻をもっと発展させるためには地下鉄7号線を延伸させる必要があり、県も市も全力で取り組んでいる。国では北に延伸させる場合には別路線でも大宮とか新都心に入れていかなければ回遊性、発展性がないだろうという意見が出ている。さいたま新都心駅や大宮駅に人の流れを作ることを含めて、もっと持ち味、そこに反映できる部分も今後考える余地があると思っている。

新幹線が大宮暫定始発になったのは、当時の大宮市長が絶対に作るということを宣言したことの影響が大きい。当時の国鉄については大宮にこれだけお世話になったということもあって、全新幹線止めることになり、現在の3面6線となった。当初の計画はコンコースが20mだったが、私どももできる限りのことをしなければということもあり、30mに広げたという経緯もある。東の交流拠点の基礎はそのようなところから始まっている。今までの経緯と反省を踏まえて、今後ともお互いに細かいことも相談し合い、言い合える間柄の中でぜひ事業を促進していただきたい。

<山崎オブザーバー> 開発街区の皆さんの切実な思いや与えられている条件をお聞きすることができてよかった。その中で大宮らしさをどこに求めていくのか。大宮は交通の拠点であることや、駅前からつながる氷川の杜等を含めて、素晴らしい特性を持った駅前を目指していきたい。

また、デッキの話が出ていたが、デッキがあつて、2階レベルに緑があつてもよいが、グランドレベルも忘れてほしくない。現在の西口の姿を見て旧大宮市民で残念に思った方は多かったと思う。これから大宮が目指すデッキの検討にあたり、グランドレベルも含めた回遊性や氷川の杜とのつながり、母体としての交通の拠点網ということを含めて考えていく方法もある。

<会長> 氷川神社の参道については大宮GCS推進戦略会議においても皆さん大事だとおっしゃっている。この地区からどうやってその雰囲気、あるいはそこに具体的にうまくとりつけられるかというあたりはいろいろご指摘いただいている。県や国からアドバイスをいただきたい。

<田雑オブザーバー> これだけ多くの民間開発が計画されている形で、これだけ大きな駅の周辺開発というのは大宮しかないと改めて感じた。関係者が多いプロジェクトについては共通の方向性をしっかり持てるかどうかが大きな課題だと思っている。まずは共通の方向性を持つことが重要である。その上で、同じ方向を向けたタイミングでしっかり動き出せるかということ

が重要である。スケジュール感が必ずしも一致しないかもしれないが、しっかりと最初の段階で方向性を関係者皆さんで共有して、一步目のタイミングを逃さずに進めていただきたい。

駅前広場、新東西通路については各PT（プロジェクトチーム）で検討されているとのことだが、まちづくりの観点、公共性の観点を含めてしっかり評価・整理し、民間の方々を含めた共通の方向性を一丸となって決めていただくということが我々としてもしっかり応援をしていける前提となると思っている。

<会長> ぜひ応援いただきたい。現実的なプロジェクトになってくれれば経営上の観点もとても大事である。幅広い支援をいただきたい。

<太田オブザーバー> 大宮駅は東日本の拠点になる駅で、たくさんの方が来られるが、第一に地域の方にとってよい形が大事だと思っている。そうなることで、さらに地域の外からいろいろな方が呼び込まれてくると思う。コミュニケーションをしっかりと取って、地域にとってよいことを第一に考えながら、関係者一体となって進めていただきたい。その際に我々としても協力していきたい。

<大宮南銀座まちづくり勉強会・石関氏> 資料1 P. 17に駅前広場の案が3つある。南銀座の商店としては、2つのエリアを検討していく際に埼玉県最大の繁華街である南銀座を生かせるような形で考えていただきたい。

<西村委員代理（岩本氏）> 検討状況をお伺いしたが、県として東日本の交通の要衝である大宮駅については、鉄道利用者の乗り換え改善、駅前広場の利便性向上を期待している。大宮駅の鉄道の乗り換えについては、関係者との調整に時間がかかると思うが、スケジュール管理のところが重要であると考えている。早期の改善が図られるよう引き続きの検討をお願いしたい。公表可能な情報があるようであれば、ぜひ可能な限り早期の情報共有をお願いしたい。

また、駅機能高度化検討会について、会の趣旨や、スケジュールと検討内容、県に期待しているところを改めて確認させていただきたい。

<事務局> 資料1 P. 2の駅機能高度化検討会については、鉄道事業者、県、市が参画する乗り換え改善を図る検討会である。JRと東武が2カ年かけて調査を進めている。その結果を踏まえて、中間報告などのタイミングで埼玉県にも入っていただいて情報共有しながら、よりよい方向にしていきたい。大宮はさいたま市にとっても交通結節点であるが、埼玉県にとっても重要な拠

点ということで認識している。県からもご意見をいただき、またバックアップしていただきたい。

<栗原オブザーバー> 会議の進め方について確認だが、オブザーバーは発言を積極的に行ってよいのか。

<会 長> 結構である。

<栗原オブザーバー> 商店街の会議で、GCSでは商店街はどのような扱いになっているのか疑問として挙がっていた。会議に招待いただき、東口商店街を代表して感謝申し上げたい。

今日の会議の中でも、大宮らしさ、商店街に関する話題が出ている。引き続き商店街を念頭に置きながら開発を進めていただきたい。

今日の内容を会議に持ち帰り、東口商連として意見をお伝えしたい。

<会 長> 広いエリアの皆さんと協調して進めていきたい。ぜひよろしくお願ひしたい。

<工藤オブザーバー代理(藤村氏)> これまでの議論をこれからにつなげていくというところで大きな区切りがついた会議で、手ごたえを感じている。

大宮GCS推進戦略会議の議論で、「路地感」、「動かす人」というキーワードが出てきた。私どもは「動かす人」、つまりエリアマネジメントの仕組みづくりを大きな都市計画や街並みの整備に合わせて、組織とか人、体制、仕組みを作っていく役割を担っている。

大宮らしいウォークアブルな空間を考えていくときに、ストリートというのは大宮で非常に重要であると改めて認識している。これまでの大宮のストリーートの議論は大宮GCSプラン2020では東西軸が強かったが、資料1 P.17の案③では南北、銀座通りをつなぐ矢印が強く出ている。これはデザイン調整ワーキングの中でも何度か議論が出ており、中地区のご協力を得て南北の軸を実現できると、お祭りや日ごろの回遊の面でもよいと思う。案③が出てきたことは大変印象に残った。今後ともよろしくお願ひしたい。

<会 長> 案③は駅から少しバスの乗り場が遠くなるという問題点を含んでいるため、駅との関係も含めてもう少し工夫が必要だと思う。

地下車路ネットワークについても、中地区や南地区の駅前の開発の駐車場の計画と一緒に考えていかなければいけない。動線や出入口等、できれば市で考えていただき、駐車場の配置等について開発街区とも協力し合ってよい案が出てくるとよい。

スケジュールについて、今年度末までに駅前広場をはっきり決めないと開発街区では絵が描けないというご意見もあった。開発街区の絵と駅前広場の絵は一体である。概ねの位置が決まれば、ディテールは開発と調整した方がよい空間になる可能性が高い。可能であれば駅前広場の方向性について年度内に決めていただき、その前提のもとに開発街区の絵を深めて、公共空間と開発街区が協力し合えるようなよい関係をうまく模索していただきたい。とても難しいとは思いますが、頑張ってください。

## 5. その他

<事務局> 本日の会議録につきましては後日事務局で作成したものを委員の皆様にご確認いただいた後、ホームページにて公開する。

## 6. 閉 会

以上